

2018年度研究会活動報告 「ナリッジ・スペース研究会」

1. 研究課題（研究会名）

ナリッジ・スペース研究会

2. 概要・目的

本研究会は、法学・経済学・社会学などの社会科学分野における各々の研究手法を互いに勉強し、自己の研究に取り入れるとともに、他の研究分野との協働によって新たな知見を開くことを目的としている。

3. 主査・メンバー（構成）

齋藤洋(東洋大学法学部教授)、鈴木崇之(首都大学東京法学部助教)、水村陽一、滝口雄太、杏澤岳、吉田拓矢(以上、東洋大学大学院)、浅井謙輔(中央大学大学院)

4. 今年度の活動・成果報告等

(1)第1回研究会

日時 2018年6月18日 18時15分～19時45分

会場 第一会議室(東洋大学白山校舎)

議題 今後の研究会の打ち合わせについて

参加者同士の自己紹介、研究会の目的及び方針の共有、論文投稿、予算などについて

(2)第2回研究会

日時 2018年7月23日 18時15分～19時45分

会場 第三会議室(東洋大学白山校舎)

報告者 鈴木崇之

テーマ 「法学における方法論の紹介」

法学における解釈論、違憲審査基準、他の学問分野との協働可能性について報告をした

(3)第3回研究会

日時 2018年12月11日 18時15分～19時45分

会場 5303教室(東洋大学白山校舎)

報告者 水村陽一

テーマ 「開業促進政策と開業障壁-ドイツ手工業秩序法の大改正に関する実証分析-」

第1回研究会では、本研究会における目的及び方針の共有を行い、次回以降の報告担当者の決定などを行った。その後、第2回研究会において、法学における方法論に関して解釈論を中心に他の研究分野の参加者に対して報告を行った。報告後の議論の中で、各研究分野の研究手法の紹介を報告の中ではなく、報告に対する質問の中で指摘していくほうがより建設的であるとの意見がなされた。そこで、第3回研究会では、報告者の研究テーマについて報告をしていただき、経済学分野の報告に対して、他の研究分野から質問・議論を行った。構成員も会を追うごとに増えており、研究分野も法学、経済学、社会学、数学、国際地域学と多岐にわたっている。

今後も研究会を定期的に開催し、報告者に報告及び議論を踏まえた論文を執筆していただき、研究会としての成果をあげていく。